



令和6年度 学校経営方針

学校は今、急速なデジタル化や価値観の多様化などの社会の変化に合わせ、アップデートしていくことが求められています。今まで当然のように行ってきた黒板とノートを使った一斉指導の授業は、ICTを活用した個別最適化と対話を重視した授業に変わり、自由進捗学習や探求学習も主流になりつつあります。

子供たち自身や環境の変化も大きく、不登校の増加も大きな課題です。大人が先回りして「子供に不快感が生じないように環境を調整」しすぎていることも指摘されます。学校は多くの子供にとって「思い通りにならない場所」ですが、それに耐えられない子供たちが増えてきています。

一方で、働き方改革と言われながらも、限られた教職員数・授業時数の中で、感染症や震災のような危機対応や子供たちの安全への対応も、相変わらず学校に求められています。

それらの課題に向き合い、解決の道を探りながら、教育目標である「心やさしい子」「すすんで学ぶ子」「からだを鍛える子」の育成を通して、これからの予測不可能な社会に出てた時に、自分に自信を持って、強く・しなやかに生きていく力を子供たちにつけることを目指します。さらに、子供も大人も学校に関わる人間全員がつながり、だれ一人取り残されない、ウェルビーイングな状態で行われる場所であること、これが学校経営の最上位目標です。

【本校の教育の基盤①】
日本国憲法・教育基本法・学校教育法
関係法規・学習指導要領
東京都及び日の出町教育委員会の目標

【本校の教育の基盤②】
児童の実態
地域・保護者の実態、願いや思い
教職員の实態、願いや思い

【本校の教育の基盤③】
「第4期教育振興基本計画」
持続可能な社会の作り手の育成
日本社会に根差したウェルビーイングの向上

《目指す学校像》 どんな学校にしたいか？

- ▶安心して楽しく学べる学校
- ▶保護者が通わせたい学校
- ▶教職員が働きたい学校
- ▶生涯学習の基盤となる学校

キーワード①

ウェルビーイング (Well-being) な学校

Well(良い)+Being(状態、存在)=心身ともに健康で、幸せな感情が持続的である状態
社会構造の変化を背景として子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が必要

子供たちのウェルビーイングが家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していく姿の実現が求められる。



教師のウェルビーイング
・職場の心理的安全性
・良好な労働環境
・保護者や地域との信頼関係
・子供の成長実感

《目指す児童像》 どんな子どもを育てたいか？

【学校教育目標】

○やさしい子
(豊かな心)

○すすんで学ぶ子
(確かな学力)

○からだを鍛える子
(健やかな体)

キーワード②

「自己肯定感」

「主体性」

「多様性」

の3つの力を付けることに繋がっているかを、本校の全ての教育活動に当てはめながら、展開していく。



【自己肯定感】	【主体性】	【多様性】
<ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの自分を認める (自分は自分のままでいい) ・自分の「強み」を見つける ・レジリエンス (逆境や困難に負けない力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・≠自主性 ≠素直 ・言われたからやる ⇒ 納得したからやる ・学習目標も自分で決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の多様性を認める。(SDGs、国際理解、インクルーシブ、LGBTQ、…) ・多様な見方、考え方 ・情報活用能力、情報リテラシー (デジタル・シティズンシップ)
<ul style="list-style-type: none"> ・自分はありのままの自分でいい ⇒ 自己肯定感 ※自尊感情、自己効力(有用)感 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこと(気持ち)を自分の言葉で表す ⇒ 主体性 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な見方、考え方を認める ・教職員、児童、保護者、地域とつながる ⇒ 多様性(自分も周りも・子供も教員も)

これからの社会を、強くしなやかに生きていく力を持った子
予測不可能な社会でも、逆境に負けずに自信をもって、自分らしく生きてほしい

ひとりひとりが **らしさ**を活かし **いきいき**学ぶ

本年度の重点 5タイトル25項目

【豊かな心の育成】

～心やさしい子～



□人権教育・道徳教育・心の教育の推進

- 道徳授業地区公開講座で全学級の授業公開、意見交換会の実施や日々の道徳授業の充実
- 児童会の取組を中心とした、日常的な挨拶の推進
- 一人一人の考え方や感じ方を表現し、多様性に満ちた議論をする場の充実
- 自他ともに大切に思える取組の推進
- あらゆる偏見や差別、いじめをなくすための取組の推進
- 心理的安全性が保たれた学級・学校づくり
- SCや心理専門家の積極的な活用

□校内研究の充実

- 「互いのよさを認め合い、輝くことのできる児童の育成」～かわり合う活動と振り返る活動の充実を通して～

□異年齢集団での活動の充実

- 清掃や集会、学校行事などでの異年齢集団（たてわり班「平井フレンズ」）による活動や交流活動の充実
- 日常的に児童相互の人間関係を育成
- たてわり班活動を通じて、思いやりや尊敬の念、自己肯定感の育成

□自然体験活動・奉仕活動の充実

- 学級活動や奉仕活動、勤労生産活動の充実
- 自然の中での体験活動の重視

□社会情緒的スキル（非認知能力）の向上

- 見えにくい、見えない学力も重視
- 人との関わりの中でコミュニケーション能力を中心とした非認知能力の育成
- 幼保との連携推進

【確かな学力の定着】

～すすんで学ぶ子～



□学習意欲と基礎学力の向上

- （主体的な学び 学びの個別最適化）
- めあてと振り返りのある授業展開
- 水曜日の6時間授業の実施による時数確保
- 学習意欲を高める教材の工夫
- 基本タイムに漢字・語彙・計算に関する指導の実施
- デジタルドリル等、ICT活用した基礎基本の徹底

□思考力・判断力・表現力の向上

- （対話的な学び、学びの協働化）
- 対話的な学びにつながる授業の充実
- 協働学習に繋がるICTの活用
- 互いに学び合う学習活動の充実
- 発表、プレゼンテーションなど多様な「表す力」＝「アウトプット」を重視した授業の充実

□ICT活用の推進

- GIGAスクール構想5年目にふさわしい、タブレット端末の日常的な活用「教具から文具」へ
- 授業支援ソフト・デジタル教科書等・デジタルドリル（eライブラリ）等の積極的な活用
- 家庭学習での活用（GIGA端末の持ち帰りの推進）
- 情報リテラシー教育（デジタル・シティズンシップ教育）の推進

□言語活動の充実

- 各教科における言語活動の充実
- 朝読書の時間の有効活用
- 図書ボランティアによる読み聞かせの実施

□支援を要する子への対応の充実

- 特別支援教室「まなほ」と学級の連携
- 授業のUD化「だれ一人取り残さない」指導

【健やかな体の育成】

～からだをきたえる子～



□健康・体力づくりの推進

- 健康の増進に向け保健指導の充実
- 体力調査と活用と結果の分析
- 持久走週間・縄跳び週間等の年間を通した取り組みによる体力向上の推進

□命を守る教育の推進

- 安全・安心な環境づくり
- 地域の実態に合わせた日常的な安全指導・安全管理の徹底
- 平井中学校や消防・警察との連携
- 「自分の命は自分で守る」防災教育の充実
- 平井川での環境学習

□インクルーシブ教育の推進

- 特別支援コーディネーターを中心とした組織的な対応の推進
- 支援教室「まなほルーム」での支援の充実との適切な運用
- すべての授業でのUD化
- 町相談支援係や医療機関との連携

□オリンピック・パラリンピックレガシー教育の推進

- アスリートによる講演・体験教室の充実
- 外部講師によるスポーツ体験教室などの充実
- 東京都「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」の活用

□新しい生活様式への対応

- 感染予防を徹底し、身体・心両面から児童の安全と健康を守る

目指す教師像

チーム平井

地域とのつながり

【【広い視野と専門性の確立】】

～とらわれない、おそれない、あきらめない～

□学校観、指導観、児童観のバージョンアップ

- 現在の教育課題や子供の変化に敏感な教師
- 子供たちに寄り添い、子供たち自尊心に敏感な教師
- 「教える」から「学ぶ」へ 「任せる」から「委ねる」へ 「まとめる」から「つなぐ」へ
- 校内OJTの定期的な開催による、お互いの得意を活かした自己研鑽

□危機管理能力の向上

- 初期対応と報連相の徹底
- 安全点検、安全対策、安全指導の充実
- コンプライアンス意識の強化と服務規律の徹底
- 常にチームで対応することを意識した情報共有

□保護者との連携

- 保護者の思いに寄り添いながら、子供を主語にした連携
- 学校・家庭・地域の役割の明確化

□教職員の働き方改革の推進

- 業務の効率化の推進 ・ICTの効果的活用の推進
- 教職員が自身と向き合う時間の確保（定時退勤日設定、休暇取得の推進）ワークライフバランスの推進

□心理的安全性が保たれた教職員集団の構築

- 同僚性、互いの信頼関係の維持
- 変化や変容を恐れない姿勢
- 対話によるボトムアップ型の提案

【【学校と地域の新しい関係づくりの推進】】

～地域の風が行きかう学校～



□地域に根ざした教育の充実

- 豊かな自然環境や産業・文化施設等を対象とした学習の充実
- 地域に根ざした体験活動の充実
- 地域資源の教材化による持続可能な取組の推進
- 地域人材をゲストティーチャーとして活用した教育活動の充実

□環境教育の推進

- 地域環境素材の教材化
- 平井川の最大限の活用と体験活動の充実（河川教育）

□コミュニティ・スクールに向けた準備

- 学校と地域が一体となった教育活動や、地域学校協働活動の充実と活性化
- 学校評議員会との連携強化

□学校広報活動の充実

- 各種便り、ホームページ、SNS、メール配信等を活用した学校や子供たちの様子の積極的な発信。
- 学校公開や保護者会の充実

□幼保小中連携の推進

- 幼保との連携強化
- スタートカリキュラムや架け橋期カリキュラムの充実
- 幼保小中の教職員の交流
- 小中で一貫性のある指導

結果として
目指す児童像

これからの社会を強く、しなやかに
生きていく力を持った子

心理的安全性

《学校教育目標》

心やさしい子・すすんで学ぶ子・からだをきたえる子

主体性

自己
肯定感

多様性

ウェルビーイング



こどもたち

目指す教師像

～とらわれない、
おそれない、
あきらめない～

教えるから学ぶへ
任せるから委ねるへ
まとめるから選ぶへ

教育活動

学習活動 たてわり班
ICT活用 児童会活動
地域連携 小中連携
環境教育 自然体験
インクルーシブ 特別支援
生活指導 など
別室登校

目指す学校像

ひとりひとりがらしさを活かしいきいき学ぶ

・安心して楽しく学べる ・保護者が通わせたい
・教職員が働きたい ・地域(生涯学習)の基盤となる

保護者・PTA
評議委員
地域人材

地域環境(人材・自然・歴史)

豊かな土壌

令和6年度 日の出町立平井小学校 学校経営計画

令和6年4月10日

校長 森田 哲生

教育目標

目指す学校像・目指す児童像

人権尊重の理念を基盤とし、心身ともに調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、多様な人々と協働しながら社会の変化を乗りこえ、豊かな人生を切り拓く力を育成し、持続可能な社会の創り手となるために次の目標を設定する。

学校経営スローガン「ウェルビーイングな学校」
～ ①ひとりひとりが ②らしさを活かし ③いきいき学ぶ ～

- すすんで学ぶ子【確かな学力】
- 心やさしい子【豊かな心】
- からだをきたえる子【健やかな体】
- ★重点目標は「心やさしい子」(協働合い、支え合い、協力して行動しよう)

- ・安心して楽しく学べる学校(平井小で学んで良かったと言える学校)
- ・教職員が働きたい学校(平井小に勤務して良かったと言える学校)
- ・保護者が通わせたい学校(平井小に通わせて良かったと言える学校)
- ・生涯学習の基盤となる学校(地域の要、生涯の学びの基盤となる学校)

教育目標である「心やさしい子」「学び進む子」「体を鍛える子」を育てることで、未来の予測不能な社会において、自信を持ち、強くないなりに生きる力を子供たちに育むことを目指す。さらに、学校を関わる全員にとって、だれ一人取り残されない、ウェルビーイングな場所とすることを最上位の目標とする。

・これからの社会を、強くしなやかに生きていく力を持った子
「自己肯定感」「主体性」「多様性」の3つの力を重視

中・長期的な目標

(1)主体的で対話的な学びのつなげる基礎学力の向上	(2)心の豊かさきつうな人権教育と環境教育の推進	(3)健康と安心安全を核とした学校環境の整備	(4)教職員の専門性とモチベーションの向上	(5)地域と共生する開かれた学校の推進
---------------------------	--------------------------	------------------------	-----------------------	---------------------

本年度の重点目標・具体的な方策

【5タイトル25項目】

教育目標・目指す児童像		目指す学校像・チーム平井		
確かな学力の定着 (すすんで学ぶ子)	豊かな心の育成 (心やさしい子)	健康な身体 (からだをきたえる子)	広い視野と専門性の確立 (とらわれない、おそれない、あきらめない)	学校と地域の新しい関係づくり (地域の風が行きかう学校)
<p>○学習意欲と基礎学力の向上 (主体的な学び、学びの意欲の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の活用・学びの意欲の育成 ・学習意欲を高める教材の工夫 ・基本スキルに漢字・計算・図形に関する指導の実施 ・デジタルドリル等、ICT活用した基礎基本の徹底 	<p>○人権教育・道徳教育・心の教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業地区公開講座で全学級の授業公開、意見交換会の実施や日々の道徳授業の充実 ・児童会での取組を中心とした、日常的な道徳の推進 ・一人一人の考え方や感じ方を表現し、多様な文化に敬意を払う態度の育成 ・自己ともに大切に思える取組の推進 ・あらゆる偏見や差別、いじめをなくすための取組の推進 ・心理的安全性が保たれた学校・学校づくり ・SCや心理専門家の積極的な活用 <p>○校内研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「互いのよさを認め合い、 「偉いよさを認め合い、 偉くことのできる児童の育成」 ～かわり合う活動と振り返る活動の充実を通して～ 	<p>○健康・体力づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の増進に向け保健指導の充実 ・体力測定と活用と結果の分析 ・持久走運動・縄跳び運動等の年間を通した取組による体力向上の推進 <p>○命を守る教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な環境づくり ・地域の安全と合わせた日常的な安全指導、安全管理の徹底 ・平井中学校や消防、警察との連携 ・「自分の命は自分で守る」防災教育の充実 ・平井小での環境学習 	<p>○学校教、指導員、児童職員のバージョンアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の教育課題や子供の変化に敏感な教師 ・子供たちに寄り添い、子供たち自身に敏感な教師 ・「教える」から「学ぶ」へ ・「まとめる」から「つなぐ」へ ・校内ICTの定着による開かれた学校環境の構築 <p>○危機管理意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級対応と避難経路の徹底 ・安全点検、安全対策、安全指導の充実 ・コンプライアンス意識の強化と職務規律の徹底 ・常にチームで対応すること意識した情報共有 	<p>○地域に根ざした教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境や産業・文化施設等を対象とした学習の充実 ・地域に根ざした体験活動の充実 ・地域資源の活用による持続可能な取組の推進 ・地域人材をゲストティーチャーとして活用した教育活動の充実 <p>○環境教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携教材の教材化 ・平井川の最大限の活用と体験活動の充実(河川教育) <p>○コミュニティ・スクールに向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が一体となった教育活動や、地域学校連携活動の充実と活性化 ・学校評議員会との連携強化
<p>○ICT活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想5年目にふさわしい、タブレット端末の日常的な活用「教員から児童」へ ・授業支援ソフト、デジタル教科書等の積極的な活用 ・デジタルドリル(オンラインドリル)の積極的な活用 ・家庭学習での活用(GIGA端末の持ち帰り)の推進 ・情報リテラシー教育(デジタル・シティズンシップ教育)の推進 	<p>○異年齢集団での活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃や集会、学校行事などでの異年齢集団(たてわり班「平井フレンズ」)による活動や交流活動の充実 ・日常的に児童相互の人間関係を育成 ・たてわり班活動を通じて、思いやりや尊敬の念、自己肯定の育成 <p>○自然体験活動・奉仕活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動や奉仕活動、勤労生活活動の充実 ・自然の中で体験活動の推進 <p>○社会情緒的スキル(非認知能力)の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見えにくい、見えない学力も重視 ・人と人の中でコミュニケーション能力を中心とした非認知能力の育成 ・幼少期の連携推進 	<p>○オリンピック・パラリンピックレガシー教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスリートによる講演・体験授業の充実 ・外部講師によるスポーツ体験教室などの充実 ・東京都「英語と学びの体験活動プロジェクト」の活用 <p>○新しい生活様式への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症等を意識し、身体・心両面から児童の安心と健康を守る 	<p>○保護者の思いに寄り添いながら、子供を主体にした連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の役割の明確化 <p>○教職員の働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化の推進 ・ICTの効果的な活用 ・教職員が自らと向き合う時間確保 ・(定時退勤日短縮、体験取組の推進) ・ワークライフバランスの推進 <p>○心理的安全性が保たれた教職員集団の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同僚性、互いの信頼関係の維持 ・変化や不安を恐れずに活動 ・対話によるボトムアップ型の提案 	<p>○保健小中連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スター・カリキュラムや掛け橋カリキュラムの充実 ・幼児小中の教員間の交流 ・小中一貫性のある指導